

# 平成24年度第1回市長臨時記者会見

日時 平成24年7月20日（金）午後4時

場所 市役所3号棟第3会議室

## 【出席者】

市：市長、副市長、企画部長、都市計画課長、広聴担当者

報道機関：IBC岩手放送、朝日新聞、岩手朝日テレビ、岩手日報、NHK、河北新報、時事通信、テレビ岩手、毎日新聞、読売新聞（50音順）

## 1 開会（企画部長）

## 2 市長あいさつ

本日はお忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。臨時の記者会見を開催させていただいたのは、奇跡の一本松について、庁議を開いて保存方法を決定したので、記者会見を行うということになりました。

## 3 会見項目

それでは、資料にそってご説明いたしますが、保存方法については、2つの提案があったわけですが、この間議会にも相談し、ご意見をいただき、部長級以上の幹部と話し、そのうちの1つに決定しました。今回は整備方針を決定したもので、工事の内容は業者と調整していくこととなります。整備の基本条件は現在立っている一本松をできるだけ実物に近い形で立ったままで残していくというものです。加工処理、備え付け、メンテナンス費用等をさまざま比較した結果、決定したものでございます。

資料2枚目の絵を見ていただいたほうがいいと思いますが、木を5つに切断し、幹をくりぬいた形で防腐処理し、樹脂を浸透させるということで、くりぬいたところに鉄製の芯棒を入れます。資料では表になっていますが、細かい枝や葉っぱは本物ではなく、人工的なものになります。幹や太い枝はくりぬいて芯を入れる。根については、幹の下で切断ということで、根についての保存方法は別途検討させていただきます。それから、雷の避雷対策ではありますが、枝の中に避雷針を設置するというご提案をいただいております。メンテナンスは、5つに切断しますので、つなぎ目の部分に水分が入らないようにメンテナンスを行います。年1回目視をしていただいて、修正の必要があれば修復します。夏休み、お盆期間を過ぎてからの作業で、ひと月待つということですが、来年の3月11日前には新しい形で、元の場所に立てる予定で、費用は約1億5千万円程度が見込まれます。現在フェイスブック等を通じて世界に向けて募金を呼び掛けています。2枚目のイメージはお目通しをお願いします。

こちらからの説明は以上になります。

（企画部長）

ご質問等があればお願いします。

(記者)

改めて、一本松を残すという思いと、議会でも出ていましたが、一本松基金の集まり具合を教えてください。また、メンテナンスの年間コストを教えてください。

(市長)

思いは、旧市役所やいろいろな建物を残してはどうかというご意見をいただいておりますが、悲惨な事実を忘れない、今後世界の皆さんにこの地を訪れていただくためには、このような形がいいと思います。ご遺族から被災した建物を撤去してほしいというご意見が多く寄せられています。被災した建物は希望がなかなか持てませんが、奇跡の一本松は復興のシンボル、他の地域の皆様にとっても希望の象徴となり、世界中から応援やいろいろな声もいただいております。これを残す責任があるということで、今回残す方針で進めております。

(都市計画課長)

おとといで募金を呼びかけてから2週間が経ちましたが、合計で174件350万円ほどの募金が寄せられております。メンテナンス費用ですが、年間20万円ほどを見込んでおります。

(記者)

2つの業者から提案を受けて、こちらを選んだ理由は何でしょうか。

(市長)

今回採用しようとしているもののほかに、ご提案をいただいたもう一方は、考え方だと思いますが、木が枯れてしまって、1つのモニュメントとして残すというものでした。木は木として残すというのと、葉っぱも何もないという形で残す。時間が経てばいずれそうなるであろうという提案でしたが、私としては、今の現状の形、希望ということで、今日皆さんに提示した形がふさわしいと思いました。コストもメンテナンスもこちらの方が格安だったということです。

(記者)

いくらぐらい安いのでしょうか。

(市長)

3千万円ほどです。

(記者)

実際に加工するのは、地元の業者でしょうか。

(市長)

これは、芯をくりぬく作業は日本で1か所しかできないということです。定かではありませんが、名古屋の方で業者が決まっています、切断をして持って行っていただくということです。

これまでも陸前高田市にはたくさんの方々に来ていただいて、旧市役所等の手を合わせる場所がなくなってしまうということで、旧市役所は解体の一番最後の場所にするという配慮をします。

(記者)

県外の業者、愛知県の造園業者、どういう表記をすればいいでしょうか。

(市長)

作業を契約していないので、保存方法を決定させていただいたという会見です。正式に契約していないので、そこまでは申し上げることができません。たいへん申し訳ないですが。契約は8月下旬の予定です。

(副市長)

提案を受けた会社は東京で、展示ディスプレイを専門とする業者です。

(記者)

業種とすれば何にあたりますか。

(市長)

造園ではないです。人工的なものをつくる会社です。

(副市長)

持っている工場、協力先は名古屋ということです。

(市長)

会社の実績は大型ジオラマを製作したり、環境省の委託事業をしたり、自治体等で扱っているビジターセンター、自然災害メモリアル、奥尻島の津波被害にも関わっているということですけれども、パビリオンという形の中でのそういった展示を手掛けてこられた方々です。

(記者)

契約はそろそろでしょうか。

(市長)

今日決定して、最後に詰めなければならないと思いますが、切断する前段で相手方も今の段階で調査するとおっしゃっていますが、できるだけ早く着手したいと思っています。

(都市計画課長)

今日の議会で決まったばかりでございますので、詳細は今後詰めたと思います。

(記者)

一本松の保存にかかる補正予算が可決されましたが、寄附が集まるまで独自の財源で振り替えということでしょうか。

(市長)

寄附が集まってからでは遅いので、一時的に仮の予算です。

(記者)

切断するという表現ですが、根っこから切って、こちらで切断して持っていくということでしょうか。

(市長)

根っこから切ることには、文化庁の許可が必要で、文化庁との手続きがあるので、地上で切ってから運ぶことになります。

(記者)

契約方法としては随意ですか。

(市長)

そうです。

(記者)

市の一般会計で予算措置をして、寄附がきたら充当するということですが、2週間で3百万円の寄附ということですが、いつの段階で目標額に達する見込みなのでしょうか。

(市長)

いつかは分かりませんが、後は協力企業さんも、どことは申し上げられませんが、キャンペーンで協力いただけるとか、寄附を募っていなければなりません。陸前高田市を忘れてほしくない、額の多い少ないではなくて、100円でもここに関わっていただきたい、できるだけ多くの方々に関わっていただきたい。例えば、仙台まで来たときに、千円寄附した松の木が陸前高田にあるから行ってみようという、心のつながりを大切にしたいと思っています。

(記者)

Facebook で呼び掛けていますが、企業にも大口の呼び掛けを行うのでしょうか。

(市長)

大口かどうかは別に、企業にも呼び掛けはします。Facebook はやっている人には伝わりますが、知り合いを通じて東北六県のラジオに出演するように調整をしています。

(記者)

ぜひ市長から寄附を呼びかけるメッセージをお願いします。

(市長)

今日は奇跡の一本松の基金ということで、条例を通させていただきました。世界の方々に呼び掛け、奇跡の一本松、我々の心の支えになっている復興のシンボルですので、どうか我々に協力をいただきますようお願いいたします。

(記者)

議会答弁では、保存期間を10年から15年ということでしたが、そのくらい持つということでしょうか。

(市長)

業者では、室内ものはやったことがあるということですが、今回のように27mもある木を取り扱ったことはないということです。強度計算やいろいろなことをした結果、10年、15年は大丈夫だろうということでした。前例がないので、我々は議会に対して、10年という説明をしました。途中のメンテナンスや当初の条件とかみ合わない部分がどれだけあるのか。業者からは10年は大丈夫でしょうといわれています。その間、いろいろな手当ては必要でしょう。

(記者)

高さは20mで野ざらしということでしょうか、元と同じ場所ですよ。

(市長)

今はそういう予定です。

(記者)

防災メモリアル公園の中に立てるとのことですね。

(市長)

そうです。

(記者)

高さは20mですね。

(市長)

中に芯棒を入れるということであれば、20mが限界と言われていています。提案いただいた時点では、強度計算のデータがないということで、正確な結論が出せませんでした。グラフィットであれば、今の高さはキープできると言われています。

(記者)

芯棒の中身はこれから決めるのですか。

(市長)

そうです。できるだけ今の状態をキープしたい。地盤沈下しているので、それも考慮して今の状態を維持したい。

(記者)

金属の幅はどれくらいでしょうか。

(市長)

幹の太いところは太く、上にいけば細く、積み木のように乗せていくということで、絶対にこのサイズになるかどうか分かりません。

(記者)

メンテナンス費用は10年、15年分ということで、約200万ということですが、1億5千万円の内訳はどうなりますか。

(市長)

見積書には細かい作業がいっぱいあります。

実施調査、コア抜き、アルコールとか樹脂を浸透させるとか、さまざまあって、枝はレプリカにするとか細かく出ていますが、どこでどう区切っていいかは分かりません。概算なので、さきほど言った作業場所までの運搬費も出ています。現場の設置費、クレーン借り上げ料、人件費、木を加工するところが一番かかります。

(記者)

27mが20mになると7mはどこにいつってしまうのでしょうか。

(市長)

金属であれば20m、グラフィットを使えば27m。土地が低いところに立ててしまうとか切れ端が出れば、低くなってしまいますが、今の時点でそこまでは考えていません。

(記者)

8月下旬に作業で、お盆に人がくると思いますが、現在市として立ち入り禁止にしていますが、どこから一本松を見ればいいのかのでしょうか。

(市長)

がれき作業をしているので、立入禁止はそのとおりですが、観光物産協会では、語り部ということで、気仙町側から見ていただいておりますので、我々の希望はそのとおりです。

(都市計画課長)

国道との協議が整えば、できるだけ近づくことができます。作業の支障にならないように、観光客の不便を解消したいと考えております。

(企画部長)

工事現場扱いの場所ですから、撮影の際は事前に連絡をいただいております。

(記者)

保存作業が終わるまでには、周辺整備をするのでしょうか。

(都市計画課長)

通路の整備ぐらいはしたいと考えております。現在、関係機関と調整中です。

(企画部長)

一本松以外の質問でもかまいませんので、何かありましたらお願いします。

(記者)

「被災地路線バス増便へ」という新聞記事がありましたが、県交通からそのような話は入っていますか。そうするとBRTの意味をなさなくなるのではないのでしょうか。

(市長)

我々はもともと県交通に増便を要望してきました。高校生の通学は乗り過ごせば学校に行けないという苦情がきていました。市民のニーズに応えるべく要望してきたので、これはありがたいと思っています。BRTについては、JRの大船渡線が動いていないので、暫定的に代わるものにとらえているので、バスの問題とは別です。バスは震災前は17便、今は4便です。

終了 午後4時30分